

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 帯状疱疹後神経痛・帯状疱疹罹患と水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）感染関連遺伝子・VZV 潜伏感染の関連解析

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター 病院 臨床検査部 齊藤祐子

【本研究の目的及び意義】

三叉神経節および脊髄後根神経節に潜伏感染しているとされる水痘・帯状疱疹ウイルスは、宿主の免疫力低下等により再活性化され、帯状疱疹を発症させる。帯状疱疹発症後、帯状疱疹後神経痛を発症する場合があります。また、水痘・帯状疱疹ウイルスは顔面神経麻痺の原因の一つでもある。近年、水痘ワクチンの普及により水痘患者が減少し、水痘患者との接触頻度が低下したことにより、帯状疱疹患者が増加傾向にある。帯状疱疹後神経痛に対する根本的な治療法は今のところ存在せず、対症療法が主である。

東京都医学総合研究所（医学研）依存性薬物プロジェクトでは、帯状疱疹罹患患者および帯状疱疹後神経痛発症者と健常者の遺伝子多型解析を行い、帯状疱疹罹患患者および帯状疱疹後神経痛発症者と関連が強い遺伝子多型を見出した。それらは、水痘帯状疱疹ウイルス等の感染に関与すると予想される遺伝子であった。また、その遺伝子が実際に水痘帯状疱疹ウイルス感染に寄与する可能性も見出した。

そこで本研究では、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）等感染への関与が予想される遺伝子多型とヒト三叉神経節等での当該遺伝子発現およびVZV等潜伏感染量の関連を検討し、この遺伝子と帯状疱疹（HZ）・帯状疱疹後神経痛（PHN）発症との関連を明らかにする。本研究により得られた成果は、効果的な予防に役立てることができる。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2015年以降に、国立精神・神経医療研究センター病院で病理解剖され、剖検検体の残余の保管および研究使用に関して同意された方。疾患、死因に限定条件はありません。

利用する試料・情報等

試料:剖検脳織(三叉神経節、後根神経節、唾液腺、腎臓、血液)

情報等:診療録(年齢、性別、診断名など)

研究期間

2018年5月21日より2021年3月31日まで

2018年4月

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 病院
所属 臨床検査部 病理検査室 氏名 齊藤 祐子
電話番号 042-341-2711(代表)
e-mail:yukosm@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局
e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)